

② 精神症状を主症状とする患者さんに 役立つ漢方薬とは？

かんとクリニック

並木 俊一

【緒言】

加齢男性性機能低下 (LOH) 症候群の治療の原則は男性ホルモンの補充である。しかしながらホルモン補充療法を希望しない場合や既往歴や合併症でホルモン補充療法の適応とならない場合には、しばしば漢方療法が行われる。本口演では主に精神症状を主訴にするLOH症候群患者に対しての漢方薬治療について考察したい。

【LOH症候群と漢方薬治療】

女性更年期障害の有力な治療法として漢方薬は広く使用されている。漢方薬の作用は偏りを修正して中庸に戻すことであり、更年期症状の様々な症状改善に適していると言える。更年期障害は性ホルモンの低下の関与が大きく、その根本的な発症メカニズムは男女共通と考え、当科でも漢方薬を積極的に使用している。

【当科における漢方薬の選択】

当科において精神症状を主症状に受診したLOH症候群に対して使用している主な漢方薬とその選択基準は以下のとおりである。
補中益気湯：消化機能が衰え、四肢の倦怠感著しい虚弱体質。加味逍遥散：体質虚弱、疲れやすく、精神神経症状。柴胡加竜骨牡蛎湯：比較的体力のある不眠、いらだち、陰萎のある実証～中間症。
抑肝散：イライラ感や不眠などの精神神経症状。八味地黄丸：疲労、倦怠感著しく、頻尿、陰萎のある虚証。柴胡桂枝乾姜湯：体力が弱く、冷え性、神経過敏、不眠症の虚～中間証。

当科に男性更年期障害として受診した144名のうち94名に対して漢方薬を投与していた。主に補中益気湯あるいは加味逍遥散を最初に処方している。効果が不十分な場合、精神症状であれば抑肝散や柴胡桂枝乾姜湯、身体症状であれば桂枝茯苓丸、人参養栄湯を適宜変更あるいは追加している。

【結語】

LOH症候群に対する治療は、自覚症状の緩和を目指した対応が必要となる。漢方薬治療は安全性も高いと考えられ、LOH症候群治療の有効な治療法のひとつであり、実臨床で積極的な活用が勧められる。